

北海道でホソスゲを再発見する

著者	勝山 輝男, 藤田 玲
著者別表示	Katsuyama Teruo, Fujita Rei
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	64
号	2
ページ	89-91
発行年	2017-03-01
URL	http://doi.org/10.24517/00053306

勝山輝男^{1*}・藤田 玲²: 北海道でホソスゲを再発見する

Teruo Katsuyama^{1*} and Rei Fujita²: *Carex disperma* (Cyperaceae) was rediscovered in Hokkaido, Japan.

カヤツリグサ科スゲ属 *Carex* L. は世界に約2000種があり、日本には269種があるとされる (勝山, 2015)。ホソスゲ *Carex disperma* Dewey はホソスゲ節 Sect. *Dispermae* Ohwi に属す唯一の種で、北半球の亜寒帯に広く分布するが (秋山, 1955; Toivonen, 2002)、日本では明治時代に Urbain Faurie (1847-1915) による北海道の厚岸と、1954年の小山鐵夫による猿払の2記録のみがある。1954年の猿払以後、確認されたことがなく、環境省のレッドデータブック (環境省編, 2015) では絶滅 (EX) と判定された。著者の一人、藤田玲が2012年に厚岸郡厚岸町門静で採集し、アカンスゲ *Carex loliacea* L. と同定して北海道大学総合博物館 (SAPS) に収めていた標本 (SAPS-050304, SAPS-050305) がホソスゲと判明した。2016年6月に現地調査を行い、ホソスゲの生育が確認された (Fig. 1)。およそ60年振りの再発見である。

ホソスゲは無柄の花穂を疎らにつけ、柱頭が2岐し、果胞は断面がレンズ形で縁は鈍く、先は無嘴または嘴がきわめて短く、ハクサンスゲ節 Sect. *Glareosae* G. Don. のアカンスゲ *C. loliacea* L. やヒメカワズスゲ *C. brunnescens* (Pers.) Poir. に似ている (星野・正木, 2011)。ハクサンスゲ節の花穂は雌雄性 (先端に雌花部、基部に雄花部をつける) であるのに対し、ホソスゲの花穂は雄雌性 (先端に雄花部、基部に雌花部がある) であるため、Ohwi (1936) によりホソスゲ節 Sect. *Dispermae* として分けられた。ハクサンスゲ節との共通の特徴の他、花穂の先に1-3個の雄鱗片があることが確認できればホソスゲの同定は容易である。SAPS-050304 および SAPS-050305 は花穂の先に雄鱗片が認められ、ホソスゲであることが確認できた。

ホソスゲの生育が確認されたのは、厚岸町門静の標高2 m ほどの平坦地に成立したアカエゾマツ林で、林床にはカブスゲ *C. caespitosa* L. の谷地坊主が密生し、谷地坊主の間は湛水しているところが多く、他の植物の生育は少なかった。ホソスゲが出現する所は湛水が少なく、アカエゾマツ *Picea glehnii* (F. Schmidt) Mast. がやや疎らで、トドマツ *Abies sachalinensis* (F. Schmidt) Mast. が混ざり、林床にはヤマドリゼンマイ *Osmunda cinnamomea* L. が多く見られ、アカエゾマツ林の辺縁部の地下水水位がやや低い場所と思われた。ホソスゲの多くは径30-50 cmの塊を作って生育し、数か所に計50-60塊が生育していた (Fig. 1 A)。

北海道におけるホソスゲの最初の記録は、Faurie が厚岸付近で採集した標本に基づき、Franchet (1895) が *C. misera* Franch. を記載したものである。Franchet (1895) には標本番号は示されていないが、Franchet (1896) は *C. tenella* Schkur. var. *misera* Franch. の産地として厚岸をあげ、Faurie 10866 を引用している。Kükenthal (1909) は *C. tenella* Schkur. var. *misera* Franch. の産地として厚岸をあげ、Faurie 10866 の他に Faurie 8662 を引用している。また、Ohwi (1936) も *C. disperma* の産地として厚岸をあげ、Faurie 10866 を引用している。

Faurie が Adrien Franchet (1834-1900) に送った標本はフランス国立自然史博物館 (P) に収蔵されており、一部の画像はフランス国立自然史博物館で公開している標本データベース (<http://science.mnhn.fr/institution/mnhn/search>) や GBIF 日本ノードの検索サイト (<http://www.gbif>).



Fig. 1 *Carex disperma* Dewey in the *Picea glehnii*-forest at the Akkesi-cho, Hokkaido, Japan. A: Natural habitat. B: Spike. C: Inflorescence. D: Perigynium (left: abaxial side with scale, center: adaxial side) and immature nut (right). Scale: 1 mm.

jp/v2/datause/index.html) で見ることができる。*Carex disperma*を検索すると、厚岸産の標本は1892年8月28日採集のFaurie 8682と1893年8月14日採集のFaurie 10866がヒットする。前者はKükenthal (1909)が引用した標本と微妙に番号が異なり、ラベルには“tourbrières près d'Akkeshi”「厚岸付近の泥炭地」と書かれている。Faurie 10866はFranchet (1896)が引用した標本で、フランス国立自然史博物館 (P) には4シートがあり、そのうちの1点 (P-00281621) にはハクサンスゲ *C. canescens* L. が混入している。ラベルには“Akkeshi, près du village de Otamura”「厚岸, 太田村付近」と書かれている。当時の太田村は太田屯田兵村のことで、現在の厚岸町太田地区と思われる。今回ホソスゲが確認された門静からは北方に5 kmほど離れた所である。Ohwi (1936) が引用したFaurie 標本は京都大学 (KYO) にあると思われるが著者らは未見である。SAPSのFaurie 標本には“près du la vill. d'Akkeshi, 1893”と記され、標本番号は書かれていない。1893年に厚岸で採集された副標本の一つと思われる。

1954年に小山鐵夫により猿払で採集されたホソスゲの標本は北海道大学総合博物館 (SAPS) と国立科学博物館 (TNS) に収められている。SAPS 標本のラベルには「猿払駅付近」とあり、TNS 標本のラベルには、“About 1/2 km NW of Sarufutsu in Prov. Kitami. Along shallow ditch in wet mossy area with *Ledum*, *Lysichiton*, *Hemerocallis* and sedges. A single colony was noted” とメモがある。筆者の一人勝山は2006年に同地を探索したがホソスゲを見出すことはできなかった。このときの調査では主にオープンな湿地や林縁を見て回り、アカエゾマツ林内の湿地は調査しなかった。猿払でのホソスゲ再発見が期待される。

以下、今回採集された標本に基づいた形態を記す。

根茎は細く、分枝して長く伸びる。基部の鞘は葉身がなく淡褐色。有花茎は高さ20-40 cm、繊細で3稜稜があり、ざらつく。葉は出穂期には有花茎よりも低く、扁平で幅0.5-1.5 mm。花序は3-6個の花穂を疎らにつけ、長さ3-5 cm。花穂は無柄で、長さ2-3 mm、雄雌性で頂部に1-3個の雄鱗片、下方に1-4個の果胞をつける。苞は最下のものは先が芒状に長く伸びて花穂よりもやや長く、上方のものは鱗片状。雌鱗片は果胞よりも少し短く、白膜質で中肋は緑色、鋭頭または鋭尖頭。果胞は楕円形、断面は2稜形で稜は丸く、長さ2.5-3 mm、幅1.2-1.5 mm、生時は黄緑色で光沢があり、無毛、乾くと細脈が見え、基部は円く、先は急にはなはだ短い嘴となり、その口部は全縁。果実は果胞に密に包まれ、楕円形で2稜形、長さ1.7-2 mm。柱頭は2岐。

Carex sect. *Dispermae* Ohwi in Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ. ser. B, 11 [Cyper. Jap. 1]: 237 (1936)

Carex disperma Dewey in Amer. Journ. Sc. 8: 266 (1824).

Carex tenella Schkur. in Riedgr. 1: 23 (1801), non Thuill (1779).

Carex misera Franch. in Bull. Soc. Phil. Paris 8. sér. 7: 31 (1895), non Buckley (1843).

Carex tenella Schkur. var. *misera* Franch. in Nouv. Arch. Mus. Paris 3. sér. 8: 224 (1896).

Carex nakaii H.Lév. in Bull. Acad. Int. Geogr. Bot. 19: 33 (1908).

Japanese name: Hososuge.

Specimen examined. Japan: Hokkaido, Akkesi-gun, Akkesi-cho, Monsizu, Jul. 8, 2012, R. Fujita 000012 (SAPS-050304, SAPS-050305); ibid. Jun. 15, 2016, T. Katsuyama s.n. (KPM-NA0207058); Akkesi, 1893, Faurie s.n. (SAPS-024342); Akkesi, near Otamura, 14, Aug. 1893, Faurie 10866 (P-00281620, P-00281621, P-00281622 and P-00281623), by photo; Akkesi, 28, Aug. 1992, Faurie 8682 (P-00281626 and P-00281627), by photo; Soya-gun, Sarufutsu, Jul. 14, 1954, T. Koyama 11068 (SAPS-050306, TNS).

Japan: Hokkaido.

Distr.: Japan, Europe., Scandinavia, Siberia, E. Russia, Kamchatka, Sakhalin, Korea, Alaska, Canada, N. America. Widespread in the Arctic Circle.

謝辞

標本調査では北海道大学総合博物館の高橋英樹教授に、現地調査では釧路市立博物館の加藤ゆき恵氏にお世話になった。この場を借りて御礼申し上げる。

引用文献

秋山茂雄. 1955. 極東産スゲ属植物. 257pp., 248 pls. 北海道大学, 札幌.

Franchet, A. 1895. Enumeration et Diagnoses de *Carex* nouveaux pour la Flore de l'Asie Orientale. Bull. Soc. Phil. Paris 8. sér. 7: 27-53.

- Franchet, A. 1896. Les Carex de l'Asie Orientale. Nouv. Arch. Mus. Paris 3. sér. 8: 179-260.
- 星野卓二・正木智美, 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 778pp. 平凡社, 東京.
- 環境省編. 2015. レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—8 植物 I (維管束植物). 644pp. ぎょうせい, 東京.
- 勝山輝男. 2015. 日本のスゲ 増補改訂. 391pp. 文一総合出版, 東京.
- Kükenthal, G. 1909. Cyperaceae-Caricoideae. Engler, A. ed., Pfl.-reich 38 (IV-20) : 1-824.
- Ohwi, J. 1936. Cyperaceae Japonicae 1. Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ. ser. B, 11: 229-530.
- Toivonen, H. 2002. *Carex* sect. *Dispermae*. in Flora of North America Editorial Committee (ed.) Flora of North America, North of Mexico, Vol. 23., p.298. Oxford University Press, New York.
- (¹* 〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499 神奈川県立生命の星・地球博物館; ² 〒069-0834 北海道江別市文京台東町24-5 草花堂 ¹* Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, Iryuda 499, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan; ² Sokado, Bunkyo-dai-higashi-machi 24-5, Ebetsu, Hokkaido 069-0834, Japan)

(Received July 29, 2016; accepted December 5, 2016)

